神秘十字教会

2018年 総括 9/30 創造日・神秘（再臨）

第8証 【災害 誠の学園 ※又吉イエス先生 (次回)】

牧師（神師）・伝道師 天池治彦

2018年の無教会によるそれぞれ個人からによる祈りの礼拝を週に一度行っている。それは青空礼拝と神秘十字教会では伝道している。

この2018年においては災害が日本国全域で起きたと言ってよいだろう。つい最近ならば北海道の巨大地震震度7による北海道内全域の停電。

その影響は計り知れない。全ての産業に言える事である。

我は今、工業の役職と農業も行っている。教育に関したら神学院の児童子供達限定で行っている。たまに特別講師として母校へ出張もある。

その過去からの経験上、北海道道内全停電は計り知れない災害・被害が今後影響する事は間違いない。例えば農業なら、家畜で言えば酪農では乳製品に影響するし需要・供給のバランスが崩れ、加工製品にも影響する。国産の価格高騰も考えられる。それにより、輸入に補おうとすれば、海外の国々が利益を求め、安い乳製品をこの日本国へどんどん輸出させる事もあるだろう。安心安全を維持する事の難しさと、それを管理する国民の税金が更に投入される事も有りうる。

酪農の家畜の牛たちにも影響大。猛暑の中、牛舎内の環境が悪化し、牛の食欲低下による乳量低下・病気蔓延・繁殖影響・死亡率向上・飼料作物収穫・自然災害による収穫の減少やら他にも書ききれんほど酪農だけでもこれだけの被害・災害を被るのである。

他の家畜でも無論言える。養鶏だったら、気温や湿度が高いと健康を保つことが難しい。鶏舎を冷やす水やら温度を下げる扇風機からクーラーが無ければ産卵率から鶏肉成長まで

影響するし、鶏舎の環境悪化、病気発生する事、電気が使えない事は家畜の全ての第一次産業に影響するのが現代農業なのである。

この停電による原子力発電安心対策も崩壊した。もし、自家発電機が作動しなかったら、福島悲劇の歴史を繰り返したことは間違いない。原発管理問題もある地域の地震だけで道内全て停電になった事の重要問題を伝えているのである。

他にも地震だけでも熊本県から全国に至っている。この日本国が地震活火山活発化時期に入っているし、世界でも大地震が起きているのが現実にあると思う。

災害は地震だけではない。大雨・雷雨・竜巻・台風が2018年において全国で被害を被っている。我が町岐阜県でも大雨により津保川が氾濫し、ちょっと旧武儀郡に行った場所で大災害。大変な時代を迎えたとつくづく感じ思いに浸るのである。

ついこの前のニュースでは我が岐阜県において豚コレラが発生した。野生のイノシシも豚コレラに感染し、外傷がないまま死んでいるのが発見された。

この日本国では豚コレラウイルスは撲滅され、安心安全な日本国豚肉商品として世界に認められたのが、今回の発生により、輸出も禁止されるし、養豚農家にとっては大打撃。今では野生のイノシシに罠を仕掛けて捕った後、イノシシ料理もようやく全国でも認知され食として提供され始め、イノシシ被害対策や環境保全にも活かされると思いきや、豚コレラにより、イノシシも捕獲しても食として活かさず処分される事となるかもしれない危惧を我は考える。

他にも伝道すれば次から次へと豚コレラだけで述べれるが、マイナス思考だけではいけない。この国に発生したのならば、対策を打って出て、元のように撲滅をさせて日本国豚肉は安全安心との信用を得、世界へ輸出できるようにしなければいけない。

どのように豚コレラが発生し、感染したかの対策が今後必要であると考え。我が考えるには、野生のイノシシから豚コレラの伝染があるとしたら、イノシシが海を泳いできたことも十分歴史的から考えれるし、浮遊物に乗りながら来たことも十分にありうる。又はこの国は観光客をどんどん迎え入れ、観光資源と観光大国にするように国が進めている事にもイノシシが関係している事も有りうる。

何が有りうるかは考えてもらえばそれぞれで判りうるだろう。日本国養豚を輸出させない様に観光客として来ている人もいるかもしれない。病原体を持ち込んでくる観光客もい

るかもしれない。海外の養豚業界の人がイノシシ関連や家畜舎を観光で訪れて伝染したのかもしれない。

どのように感染したかは今後調査・研究史原因を突き止めなければ豚コレラは今後この日本国全国に至るまで覆いつくすことになると思う。

豚コレラだけで記載が長くなったのでこれまでとして。災害は何時どこで起きてもおかしくはなく、今まで起きてないから安全との考え方は今後やめていつでも起きても大丈夫と心を強く持つ事、つまり自分自身と主からの祈りを行う事が己個人を守って下さるし、未来に歩む事となるだろう。

少し長々と記載しましたが、次の誠の学園につきまして。

我が応援している学園。その伝道は毎日。毎日行うから、人々は知り、この学園の真髄を知るのである。

我が応援している学園というのは日本人ならば誰でも知っているだろう。それは森友学園である。

どうして応援するのかは、森友学園問題があったのだが、森友学園問題はこの森友学園においては被害者だと考える。この日本国と子供達の未来のために小学校建設を籠池御両親と御家族が必死に目指し、働きかけ、ようやく認可の許可が下りた時にある右翼反対派による左翼の調べが小学院建設地に入り、そこから問題が表に出たのが現実にあるし、左翼だけではなく、同志の右翼までもが籠池家を裏切り、罪をなすり付けたのも現実にある。

その為、御両親は逮捕され人質司法。小学院建設による借金が 30 億以上となった。そこから森友学園存続の為、理事長・学園園長となった長女と同じく職員として姉と一緒に行動した妹と共に職員方と保護者方により民事再生法による歴史ある森友学園存続の民事再生法を提出し、それが債権者集会により可決された。国と府だけは認めなかったそうである。

その民事再生法の森友学園我を応援している。その伝道は調べてみれば分かるだろう。

どうして応援するのは未来ある子供達の為、その笑顔の為、そして歴史ある新たな森友学園の為である。この森友学園の民事再生法の教育は、右翼・左翼・中道に関係なく、全

てを平等に受け入れる日本国民を育てる事と、今後、海外の人が日本に住むだろうが、その海外の人にも日本民族文化の伝統を伝え、志を遺すことが出来るのが森友学園なのである。

御両親の考え方や教育も全て拒否せずに右翼も活かしながら左翼の良い所も十分あるし、その中道の考え方も活かす人間形成が児童教育にとってとても大切。即ち道徳である。それを民事再生法の森友学園が全てのバランスを保つ共同体の考え方を歩んでいる学園とその子供達の笑顔と吉田松陰先生の志教育を行っている森友学園を我は応援しているのである。

今後とも応援し、この国・世界民族とのバランスと協和・共和を成す児童教育を未来へ遺してずっと伝えて欲しいと考える。

どんな思考・利益至上主義・力の方に寄らないバランスの共同体。即ちどの思想を批判しない、全て日本民族のよい吸収する文化・力として右翼・左翼・中道とそれ以外の新たな思想も有るだろうが、全ての考え方を持てるような森友学園を今後応援したいし、民事再生法の試練も有りますが、それも児童教育の歴史として歩み、育み・育て・育成し・心も体も成育する心の核心を育てていただきたいとの簡単な記載であるが、応援の誠・証・志と記載する。

2018年、我も1977年生まれで昔ならば人生50年だが、今では80年。人生の半ばを生き、残りの人生もこの神秘の世に証をしていく事を伝道する事を「誓いの言葉とする。」

※我が師、又吉イエス先生が2018年7月20日御国に戻られた。我が政治の師であり世界経済共同体の先生である。

又吉イエス先生とは電話でも何回もお話をしたし、当選後、世界経済共同体党中部代表として任ずる事のお話もあった。

その事については次回、一年後の2019年に神秘十字教会歴史に記載し遺したいと考える。

又、今後、世界経済共同体党のホームページが10月になくなり御国に戻るなのであるが、我はその意志を書籍として出版し、この世に遺す使命も与えられている。

それは今後の伝道で行いたい。

森友学園応援を今後行うと共に世界経済共同体党を遺すことも我が使命であると伝道する。